平成22年度農林水産省補助事業

生物多様性向上農業拡大事業

Promotion project of
biodiversity-enhanced agriculture

農業と生物多様性
Agriculture and biodiversity

少し前まで田園では空を覆うばかりのトンボや賑やかなカエルの声、水路のホタルや様々な魚たちの姿が身近な存在でした。ところが今、そうした生きものたちが次第に少なくなってきています。農業は生きものたちからの恵みなしには成立しません。また、農業活動を通じて、里地や里山など、多くの生きものが暮らす環境を創り出しています。このような農業と生物多様性が互いに支えあう関係を育み、広めていくことが、私たちの暮らしを豊かにしていくことにもつながるでしょう。

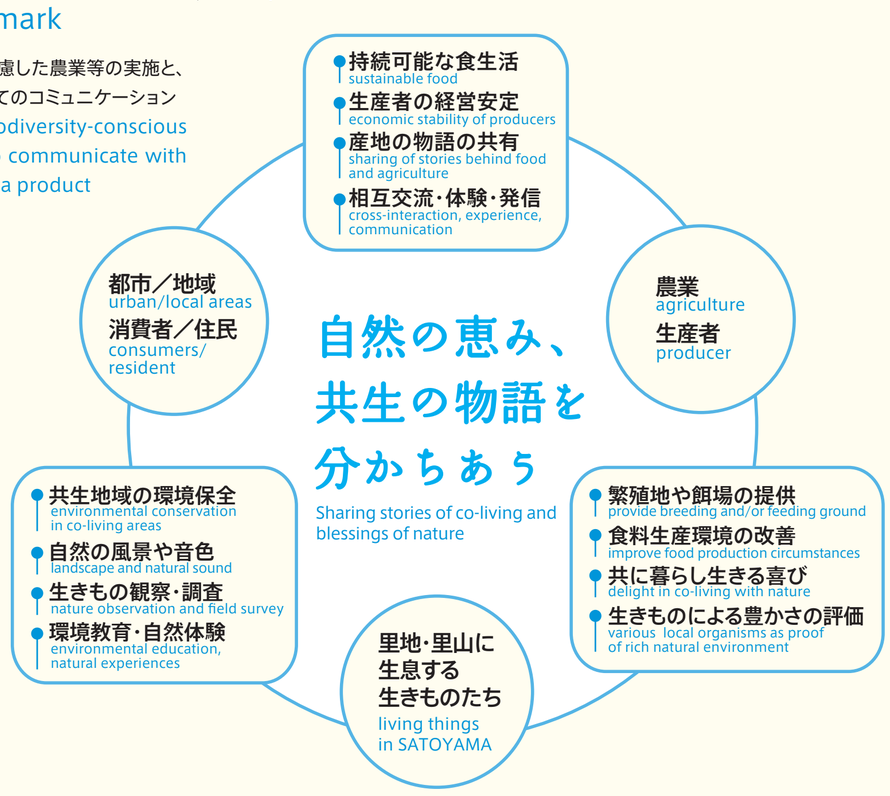
It was not that long ago that we saw dragonflies, frogs, fireflies and various fishes in our immediate circumstances. But now, those living beings have decreased gradually. Agriculture cannot exist without nature. Likewise, agricultural activities provide essential service, such as food and habitat, for living beings. Therefore, if we enhance interaction between agriculture and biodiversity, it will lead to delight and good life of ourselves in the long run.

現在、日本の各地で、田んぼや畑に生息する生きものたちの生息環境に配慮しながら生産活動を行い、農業を通じた食料生産と生物多様性保全を両立しようとする取り組みが行われてきています。こうした活動は「生きものマーク」とも呼ばれています。取り組みを行う農家、そしてそれを支持する関係者のつながりづくりを進めていくことが今後一層求められています。あなたの身のまわりでもそのような農産物が売られていたり、取り組みを行っている農家の方がいらっしゃるかもしれません。是非、探してみませんか？↗

↘ Recently, in Japan, some farmers address environmental-friendly farming to achieve an ideal balance between food production and biodiversity conservation. Some of their activities are called *"Ikimono* mark". *Ikimono* is the Japanese word which means living organisms. From now on, we need to unite such farmers and a diversity of people who are interested in agricultural biodiversity. *"Ikimono* mark" products and/or biodiversity-conscious farmers may be in our neighborhoods. Let's start to find such agricultural challenges in our daily life!

生きものマークの取り組み
Ikimono mark

生物多様性に配慮した農業等の実施と、
産物等を活用してのコミュニケーション
To operate biodiversity-conscious agriculture, to communicate with stakeholder via product



事業の目的、実施内容
Objectives, activities

食料生産と生物多様性保全を両立させる取り組みの拡大に向け、農家等の関係者の動機付けを行いつつ、取り組み事例の調査や、各種コミュニケーション活動を実施します。

To promote activities which address both food production and biodiversity conservation, we conduct case study and various communication measures.

■調査 survey
・文献調査
・アンケート調査
・インタビュー調査

■説明会等 seminar
・農家等向け説明会
・一般消費者向け展示

■ガイドブック等の作成 guidebook
・ガイドブック・報告書の作成

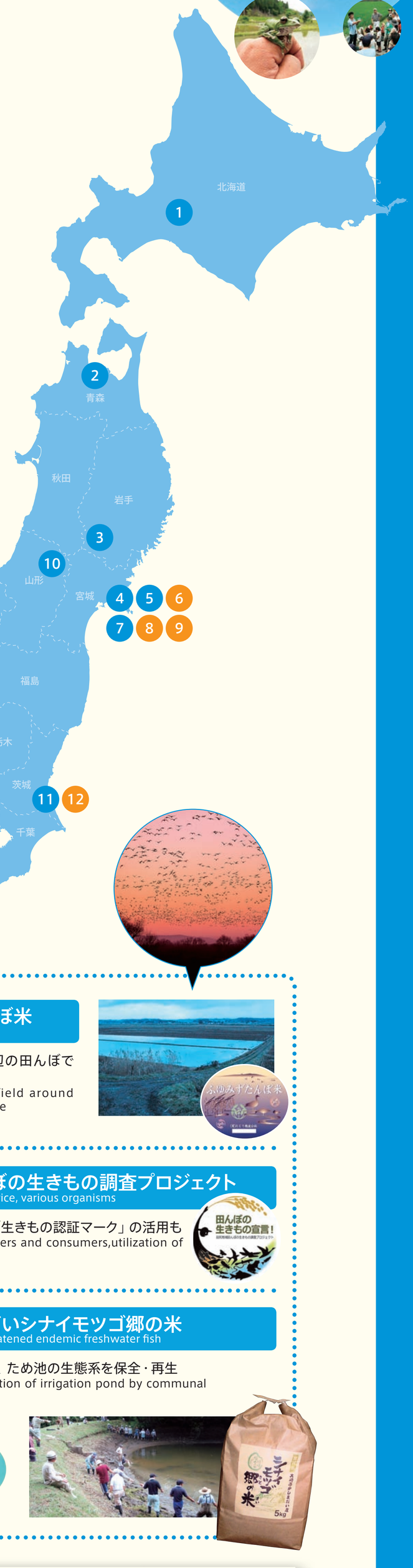
■情報交換ボードの設置・運営 communication board
・農家や支持者等の間での相互交流と学習が進むことを目的とするボード（WEBサイト）の設置・運営

※この資料は、農林水産省補助事業「平成22年度地球環境総合対策推進事業のうち生物多様性向上農業拡大事業」の一環として、（株）アミタ持続可能経済研究所が作成を行ったものです。

全国各地の取り組み事例紹介 Examples

食料生産と生物多様性保全の両立に向けて取り組んでいる農業分野の活動事例を紹介します。
Here are a couple of examples of biodiversity enhanced agriculture.

生物多様性は、地域固有のもの。生物多様性に配慮して生産された産物には、
各産地の多様な「ものがたり」があるはずです。
The essence of biodiversity is locality.
We think there are various special stories behind those agricultural products.



25 滋賀県高島市
Takashima city (Shiga)

たかしま生きもの田んぼプロジェクト
rice, various organisms

＊自慢の生きものの設定
setting own symbol organism by each farmer

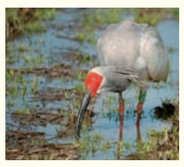
＊各種生きもの共生策の実施（魚道、スロープ等）
implement of co-existing measures(ex. fish pass, turtle slope)

23 新潟県佐渡市
Sado city (Niigata)

朱鷺と暮らす郷づくり
rice, Japanese crested ibis

＊生きものを育む農法の採用（冬期湛水等）
development of ibis-friendly method
(ex. winter flooding)

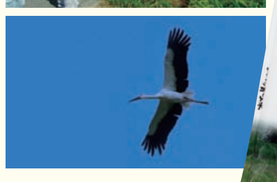
＊認証米の販売
sales of certified ibis-friendly rice



27 兵庫県豊岡市
Toyooka city (Hyogo)

コウノトリと共生した米づくり
rice, stork

＊コウノトリ育む農法の開発・普及（中干し延期、魚道設置等）
development and diffusion stork-friendly method(ex. postponement of mid-season drainage, fish pass)



9 宮城県大崎市
Osaki city (Miyagi)

ふゆみずたんぼ米
rice, wild goose

＊ガンの越冬地の沼地周辺の田んぼで冬期湛水
winter flooding in rice field around wintering area of wild goose

8
田尻地域田んぼの生きもの調査プロジェクト
rice, various organisms

＊農協（JA）と生協が連携、「生きもの認証マーク」の活用も
cooperation between farmers and consumers,utilization of *Ikimono* certification mark

6
かしまだいシナイモツゴ郷の米
rice, threatened endemic freshwater fish

＊NPOと農家の連携により、ため池の生態系を保全・再生
conservation and regeneration of irrigation pond by communal activity of NPO and farmers

32 熊本県阿蘇地域
Aso area (Kumamoto)

阿蘇草原再生シール
vegetables, grassland

＊ススキなどで野草堆肥を生産し、野菜作りに利用
conservation of mowing custom to produce green manure,utilization of green manure for vegetable production

29 徳島県鳴門市
Naruto city (Tokushima)

えんたのれんこん
lotus root, various organisms

＊ハス田周辺の生きものたちの保全
conservation of various organisms inhabiting around lotus root pond

12 茨城県霞ヶ浦周辺
surrounding area of Lake Kasumigaura (Ibaraki)

湖がよろこぶ野菜たち
vegetables, lake ecosystem

＊外来魚や未利用魚を魚粉加工し肥料として利用
producing fish meal from alien fish and unused fish,utilization of fish meal for vegetable production

取り組み事例

番号	都道府県	主な組織/プロジェクト名称	実施内容	HP
1	北海道	株式会社アレフ	ふゆみずたんぼプロジェクト	●
2	青森県	細越ホタルの里の会	ホタルの保全	
3	岩手県	岩手県一関市川崎町門崎地区	メダカの保全/「メダカ米」	
4	宮城県	農業生産法人（有）板倉農産	水田周辺の生物保全/「はつかり米」	●
5	宮城県	ナマズのがっこう（伊豆沼冬水田んぼ倶楽部）	水田周辺の生物保全/「伊豆沼オリザ米」	
6	宮城県	かしまだいシナイモツゴ郷の米つくり手の会、NPO法人シナイモツゴ郷の会	シナイモツゴの保全/「シナイモツゴ郷の米」	●
7	宮城県	雁の里親友の会	ガン類の保全/「ヒシクイ米」	●
8	宮城県	田尻地域田んぼの生きもの調査プロジェクト	田んぼの生きもの宣言	
9	宮城県	株式会社たじり穂波公社、伸萌ふゆみずたんぼ生産組合	ガン類の保全/「ふゆみずたんぼ米」	●
10	山形県	山形県河北町元泉地区保全会	メダカの保全/「べに花メダカ農産物」	
11	茨城県	ヒシクイ保護基金	オオヒシクイの保全/「オオヒシクイ米」	●
12	茨城県	NPO法人アサザ基金	外来魚駆除、霞ヶ浦水質保全/「湖がよろこぶ野菜たち」	●
13	静岡県	里山ねっと三ヶ日	水田周辺の生物保全/「子負い米」	●
14	静岡県	焼津市農家	水鳥の保全	
15	静岡県	袋井市三川地区農家、水土里ネットいわた用水	水田周辺の生物保全/「いきものとんまえ」「水の恵み」	
16	静岡県	磐田市敷地地区農家	水田周辺の生物保全/「たにし長者米」	

番号	都道府県	主な組織/プロジェクト名称	実施内容	HP
17	静岡県	藤枝市農家	水田周辺の生物保全	
18	岐阜県	蛍の会	ホタルなどの保全	
19	岐阜県	若林用水管理協議会	イワナ、バイカモ（梅花藻）の保全	
20	三重県	水土里ネットかれがわ、ヒメタイコウチ・ホトケドジョウ保存会	ヒメタイコウチ、ホトケドジョウの保全	
21	三重県	種生区活性化計画推進委員会	ホタルなどの保全	
22	新潟県	別俣地区資源保全会（HPは別俣農村工房）	ハッチョウトンボなどの保全/「ハッチョウトンボ米」	●
23	新潟県	佐渡市内農家、佐渡市、JA佐渡	トキ、水田周辺の生物保全/「朱鷺と暮らす郷づくり認証米」	●
24	福井県	鶉の里調査隊	水田周辺の生物保全	
25	滋賀県	たかしま有機農法研究会	水田周辺の生物保全/「たかしま生きもの田んぼ米」	●
26	滋賀県	滋賀県、滋賀県内農家	水田周辺の生物保全/「魚のゆりかご水田米」	●
27	兵庫県	JAたじま、豊岡市	コウノトリ、水田周辺の生物保全/「コウノトリ育むお米」	●
28	広島県	源五郎米研究会	水田周辺の生物保全/「源五郎米」	●
29	徳島県	えんたのれんこん推進協議会	ハス田周辺の生物保全	●
30	高知県	日高村グラウンドワーク推進協議会	メダカ、水田周辺の生物保全/「めだかのいる田んぼのお米」	
31	福岡県	竹野地区のヒナモロコの保護に関する協議会	ヒナモロコの保全	
32	熊本県	阿蘇草原再生シール生産者の会	草原環境の保全/「阿蘇草原再生シール」	●

※農林水産省（2010）『生きものマークガイドブック』より抜粋して作成。（この資料は、農林水産省補助事業「平成22年度地球環境総合対策推進事業のうち生物多様性向上農業拡大事業」の一環として、（株）アミタ持続可能経済研究所が作成を行ったものです。）